

「自己責任が問われる時代  
自分が楽しむ時代」



三豊市長  
横山 忠 始

新年あけましておめでと  
うございます。  
今年が三豊市が誕生して  
10年目となります。皆さま  
のご尽力、ご貢献のおかげ  
と心から感謝申し上げます。  
さて、超少子高齢化社会  
がさらに進展しています。  
2025年、団塊の世代が  
75歳の後期高齢世代に突入  
する時、現在の社会保障制  
度が維持できるのか大きな  
問題になっています。少な  
くとも現状の負担と受益が  
維持できるということは、  
どう考えてもこの人口構成  
ではあり得ません。自分で  
しっかりと健康を長く守って

いく自己責任が問われてい  
ます。  
人口の減少に伴い、本市  
でも空き家と耕作放棄地が  
年々増加しています。  
しかし、一方で空き家や  
耕作放棄地を借りたいとい  
う人はたくさんいます。  
確かに、車や機械の入り  
にくいところは、引き継ぎ  
が困難ですが、今、三豊市  
の空き家バンクでは、貸  
したい人・売りたい人が  
109人に対し、借りたい  
人・買いたい人は418人  
と、貸したい空き家不足と  
なっています。  
農地は、借りたい人94・

5ha(44人)に対し、貸し  
たい人8・5ha(30人)と  
なっています。両方とも借  
りたい人が待っています。  
家や農地は、自分が築き  
上げた不動産です。これは  
自分の資産であり管理は自  
己責任です。必要が無くな  
った時は、相続する、貸す、  
あるいは売るなりして、利  
用したい次世代へしっかりと  
引き継ぎましょう。空き家  
や耕作放棄地が及ぼす周辺  
への迷惑も最近顕著になっ  
ています。  
人口問題をはじめ、この  
大きな時代環境の変化に対  
応するには、私たち自身も

女性の知恵と参画を



三豊市議会議員  
香川 健

新年明けましておめでと  
うございます。  
市民の皆さまには、希望  
に満ちた輝かしい新春をお  
迎えのこととお喜びを申し  
上げます。  
旧年中は市議会に対し、  
たくさんのご指導とご支援  
を賜り、心から厚く御礼申  
し上げます。  
三豊市が誕生して、満10  
年目を迎えた今、合併当時  
を回想すると同時に、初心  
に帰り、安心と安全、活力  
ある三豊市建設のために邁  
進しなければと決意を新た  
にしているところです。

合併後、市議会といたし  
ましても三豊市役所の位置  
を定める条例、三豊市議会  
政治倫理条例、三豊市議会  
基本条例などを制定し、市  
民皆さまの貴重なご意見を  
お聞きしながら、市当局と  
十分議論を重ね、各種施策  
を決定してきました。  
積極的な市民参加と職員  
の努力で、三豊市の基礎が  
できたのではないかと信じ  
ています。  
しかしながら耕作放棄地  
や空き家、鳥獣被害などが  
進行しています。また、景  
気回復の実感はなく、農林  
水産業、商工業を取り巻く  
環境は依然厳しい現状にあ  
ります。  
国、地方共に厳しい財政  
状況の中、行財政改革の継  
続と公共施設の再配置、学  
校の統廃合など、将来世代  
に付けを残さない政策と実  
践が急務であります。  
10年後には、高齢化率が  
ピークになることが予想さ  
れます。人口減少問題と合  
わせて、今から対策を講じ  
る必要があります。  
将来を担う子どもたちの  
教育や子育て環境の充実、  
福祉の充実など、あらゆる

分野で女性の知恵と活躍が  
欠かせません。  
議員数は22名になりました  
が、旧7町の均衡ある発  
展を図りながら、三豊市の  
将来を見据えて、議員一同  
真剣に取り組んでまいり所  
存ですので、ご指導とご協  
力を賜りますようお願いを  
申し上げます。  
皆さまのご健勝ご多幸を  
心からお祈り申し上げます。  
幸せを運ぶと言われるコ  
ウノトリが将来共に三豊市  
に飛来してくることを念じ  
ながら、新年のごあいさつ  
いたします。

三豊市議会  
議長 香川 健  
副議長 城中 利文  
議員 宝城 明、横山 強、為山 史、瀧本 文子、三宅 静雄、近藤 久志、鴨田 久樹、三木 秀樹、金子 辰男、岩田 秀樹、詫間 政司、川北 善伴、大平 敏弘、西山 彰人、込山 文吉、水本 真奈美、浜口 恭行、丸井 研二、石井 洋三、市川 洋介